

移民の歴史(ブラジル)

いま ねんまえ にほん
今から100年前、日本でははたらくところがないひとたちがたくさんいました。

そこで、外国で日本人がはたらいでもよいと約束してくれる国をさがしました。

むかし じゆう がいこく い くに くに やくそく す
昔は、自由に外国には行けませんでした。国と国の約束でブラジルに住んではたらくことができました。

ねん しがつ にち こうべ にん にほんじん かさとまる ふね
1908年 4月28日 神戸から781人の日本人が「笠戸丸」という船でブラジルに行きました。
ろくがつ にち
6月18日にブラジルのサントスに着きました。

ねん やく まん にん にほんじん い
1941年までに 約18万8,000人の日本人が ブラジルに行きました。

そして ほとんどの人が、コーヒー農園ではたらきました。仕事はとても大変でしたが、がんば
つてはたらきました。

かね じぶん つく ひと いま
お金をためて、自分でニワトリをかったり、コショウなどを作る人もふえました。ブラジルで今、
たくさんコショウを作っていますが、これは日本人ががんばったからなのです。

にほんじん やさい た い
ブラジルでは日本人のおかげでいろいろな野菜が食べられるようになったといわれています。

にほん せんそう はじ にほんじん す
日本がアメリカと戦争を始めました。ブラジルにはたくさんの日本人が住んでいましたが、あま
りこまらなかったようです。しかし、戦争中は、日本からブラジルへ行けませんでした。
せんそう ま にほん せいかつ たいへん ひ こ にほんじん
戦争に負けた日本では、生活がとても大変でした。そのとき ブラジルに引っ越した日本人たちが、
いろいろな物を送って助けてくれました。

せんそう お ねん にほんじん い
戦争が終わってから 1973年まで また たくさんの日本人がブラジルへ行きました。
さいご ふね よこはま しゅっぱつ まる こ すこ ひ こうき ひ
最後の船は、横浜から出発した「にっぽん丸」です。その後も少しだけ、飛行機でブラジルに引っ
こ 越しをする日本人もいました。

にほんじん あさはや よろおそ
ブラジルで 日本人は朝早くから夜遅くまでいっしょうけんめいはたらきました。そして、ブラ
ジルの人たちからは「ジャポネス ガランチード」と言われました。

す にほんじん こ きょういく たいせつ じぶん がっこう こ
ブラジルに住んだ日本人は、子どもの教育を大切にしました。自分たちで学校をつくり、子ども
にほんご べんきよう
たちに日本語の勉強をさせました。

ねん にほん ひと
1980年ころになると ブラジルではたらくところがなくなりました。日本では、はたらく人
が足りなくなりました。そこで、日本は「日系人」が日本ではたらいでも良いという決まりを作り
ました。

ねん き か にっけい じん にほん く
1990年に 決まりが変わったので、たくさんの日系ブラジル人が日本にはたらきに来るよう
になりました。

※JICA横浜海外移住資料館展示案「われら新世界に参加す」をもとに作成した。